

保健体育

保健体育科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
<ul style="list-style-type: none"> 運動の行い方や健康・安全について理解し、基礎的スキルや体力を高めることができる。 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法を理解することができる。 作戦に応じたスキルで仲間と連携し、ゲームを展開することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動や健康について、自己や他者の課題を発見することができる。 課題解決に向けて、運動の取り組み方や自己の生活を工夫することができる。 自己や他者の考えたことを他者に伝えることができる。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 運動の行い方や健康・安全に関する理解に課題がある。ア 運動の行い方や習得に向けての課題解決に生かすことができない生徒が多い。ア・イ 運動や健康について、他者の課題を発見できないことがある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や体育分野の授業で、健康や安全についてのポイントを繰り返し確認する。また、保健分野と関連させて理解を深めさせる。ア 運動や運動観察のポイントを繰り返し確認する。また、タブレット端末や学習カードを用いて可視化し、自己や他者の課題を明確にする。イ チームで集まり、他者の意見を知ることで、課題を知り、繰り返し行うことで発見できるようにする。ア・イ 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間 10月～ 単元毎に2回程度 	<ul style="list-style-type: none"> 安全に授業を行うためのポイントについて発言したり、書き出したりすることができるようになった生徒が多くなった。 授業の見通しをもち、課題を把握しながらゴールイメージをもって取り組むことができる生徒が多くなった。 チームの中で役割を自覚しその責任を果たしながら、チームや個人の課題について考えることができる生徒が多くなった。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 運動の行い方や、安全に関する理解をすることに課題があるア 運動の行い方を基礎的なスキルの習得に向けた課題の解決に生かすことができないことがある。ア・イ 	<ul style="list-style-type: none"> 運動や運動観察のポイントを繰り返し確認したり、タブレット端末やホワイトボード、学習カードを用いて可視化したりすることで、自己や他者の課題を明確にする。イ 個人だけでなく、似た課題をもつ生徒が集まって課題解決に向けた運動の取り組み方を考え、実践する。ア 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間 10月～ 単元に1回程度 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のながれをふまえ、チームや個人の課題を明確にし、その改善に向け取り組み、仲間やチームのスキルを高めたり、安全面に気をつけたりして取り組む生徒が多くなった。

<p>第3学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な技能を活用して、作戦に応じた技能を用いてゲームを展開することに課題がある。ア ・ゲームで生まれた課題をチームで共有し、課題改善を講じながらチームの特徴に応じたより良い作戦を立てていくことに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの内容に応じて、必要とされる技能を練習する時間を設ける。ア ・学習カードやホワイトボードを活用して、視覚的に分かりやすい振り返りを行う。また、振り返りを通して次時の個人のめあてを立てさせる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回程度 ・9月～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教え合う活動を通して、運動や技能のポイントについてお互いに確認し合い、技能を習得することでゲームの展開に生かすことができるようになった生徒が多くなった。 ・振り返りを通して、課題の共有と次時の目標について触れ、よりよい作戦を立てながら課題の達成に向けて取り組むことができるようになった生徒が多くなった。
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 1年 運動の撮影による課題の発見・共有。
- 2・3年 運動の撮影による課題の発見・共有。ロイロノートの提出箱機能を活用し、課題や疑問、意見を共有する。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 1年 単元の導入時のオリエンテーションで、見通しをもたせる。毎時間、学習カードで学習を振り返り、課題と改善点を考えられるようにする。
- 2・3年 単元の導入で、授業の見通しを確認する。授業終了時だけでなく、学習カードで本時の課題と、課題を解決するための手だてを考えられるようにする。